

授業概要【基礎教養科目】

分野	区分	授業科目名	単位数	授業概要	備考	
人文系	哲学	哲学	1	【授業のテーマ】哲学的思考とは何か？ 【授業の到達目標】私たちが子供の頃、「僕が僕で、君でないのはなぜ？」、「時の始まりはいつ？」、「宇宙の果てはどこ？」等々といった解決のつかない疑問を抱いたことがないだろうか。当時はそれが哲学的な大問題だとも知らずに、そうした疑問は考えても仕方がないもの、無意味なものとして放置され、今は疑問を抱いていたことも忘れてしまっているかもしれない。しかし、こうした問題を考察することは本当に無意味なのだろうか。たとえば、「私とは何か」とか、「時間とは何か」といった問題は普段わかったつもりになっているが、いざこれらの問題に答えようとするとき答えることができない。実際、これらの「問題」に最終的な解答を出すことは困難であり、できないかもしれない。しかし、これらの「問題」を考察することで、分かりきったもの、当たり前のものだと思込んでいる日常生活の世界がいかに脆弱なものの上に成り立っているのかに、逆に言えばそのかけがえのなさに気づくことができるのではないだろうか。このような問題意識、そしてそこから得られるこの気づきは、専門の研究にも活かされる思考態度でもあります。この講義では、「授業の概要」に挙げられている哲学の諸問題に対して、哲学的に思考するとはどのようなことかを具体的に提示することで、その思考パターンを理解し、その思考態度を身につけます。		
	心理学	心理学A	1	【授業のテーマ】心理学Aでは実験心理学を扱う。特に知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、感情心理学など実験という手法を用いて心のありかたを研究している領域について学ぶ。 【授業の到達目標】心理学Aでは実験心理学の基本的な考え方を身につけることを目標とする。実験心理学では、心のはたらきを実験という手法により明らかにしようとする。そこで大事になるのは、実験をどのように設計するかということと、心のはたらきを捉えるためにどのような測定を行うかということである。これについては、具体的な実験の例を知ることによって理解が深まる。そこで、心理学Aでは、実験心理学の諸領域を網羅的に概観することはせず、いくつかの代表的な実験事例を通じて実験心理学を学ぶ。		
		心理学B	1	【授業のテーマ】誕生から死に至るまでの人間発達の特徴を発達心理学の観点から理解し、その発達を支援する働きかけを教育心理学や臨床心理学の視点から考察する。 【授業の到達目標】①人間発達がどのように生じるのかというメカニズムと、各発達段階である胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、中年期、老年期の特徴と意義を理解する。あわせて、発達研究に用いられる実験、観察、調査、事例研究などの研究方法を理解し、その研究方法によりどのようにして知見が得られたかを知る。②発達の中で生じるつまづき、不適応、精神病理、障害などについて理解を深め、どのような支援があるかを知る。		
	論理学	論理学	1	【授業のテーマ】講義と課題を通じて、論証の基本的形式や演繹や帰納などといった種々の推論形式を学ぶことで、論理的にものごとを考えるための力を養う。 【授業の到達目標】正しい推論や論証についての基本的な理解を得ること、与えられた主張の論理的内容を正確に把握できるようになること、それについての的確な批判ができるようになること、などがこの授業の目標である。		
	教育学	教育学A	1	【授業のテーマ】本科目では、日本教育史、学習科学、幼児教育、科学教育、教育法制度、教育経営などの観点から教育学に関する基本的な内容を講述する。 【授業の到達目標】教育学に関する基礎的な知見を獲得することを目標とする。		
		教育学B	1	【授業のテーマ】本授業では、現代の教育問題の本質について国際比較の観点から映像教材やディスカッションを通じて検証する。これにより、教育問題の多面性と複雑性を認識し、それぞれの立場がどのような論理に基づいているかを理解する。対象としては初等教育、中等教育、高等教育などの公教育を扱う。 【授業の到達目標】日本と諸外国における教育問題についての基礎的な知識を獲得する。教育問題に関する当事者としての批判的思考力を養う。		
	倫理学	倫理学	1	【授業のテーマ】倫理学入門 【授業の到達目標】「倫理学」とは、古典ギリシア語のエトス(人柄)に由来する英語ethicsに相当する日本語であり、哲学の一部門を成す学問である。ただ、古来より現代に至るまで行われてきた倫理的な営みは、それが人間の生について学問的に探究するものであるという共通点を別にすれば、極めて多様な広がりや有している。本科目では、そのような倫理学が、どのような問題をどのように考察し、そしてどのような立場がそこに見出されるのかについて、受講者に体感してもらうことを目指す。		
	社会科学系	法学	法学A	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。	
			法学B	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。	
		政治学	政治学A	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。	
政治学B			1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。		
経済学		経済学A	1	【授業のテーマ】経済学Aでは、消費者や企業の活動、市場の機能およびその限界について、ミクロ経済学の基礎を解説する。 【授業の到達目標】経済のしくみを理解するために必要な基本的概念や分析枠組みを学び、さまざまな経済問題や経済政策について考えるためのミクロ経済学の基礎を習得することを目標とする。		
		経済学B	1	【授業のテーマ】経済学Bでは、経済全体の活動水準の決定や、景気変動、失業、経済成長などについて、マクロ経済学の基礎を解説する。 【授業の到達目標】経済のしくみを理解するために必要な基本的概念や分析枠組みを学び、さまざまな経済問題や経済政策について考えるためのマクロ経済学の基礎を習得することを目標とする。		
社会学	社会学	1	【授業のテーマ】具体的な内容は担当する教員によって異なるが、社会学という学問について、その学説と理論の歴史と現状、ならびに経験的研究の成果について、そのつど具体的主題やトピックを中心にとりあげつつ、概説的な授業を行う。 【授業の到達目標】現代社会における諸問題を批判的に解釈・分析するための社会的な概念や方法論を身につける。			
地理学	地理学	1	【授業のテーマ】人間・都市と環境 【授業の到達目標】日本や世界のさまざまな地理的事象を取り上げ、人間・都市・環境の特徴や変遷、互いの関係を、「地理学」の観点から考えます。目標は、人間、都市と環境という課題への興味関心を受講生が持ち、自分の足で地域を歩いて調べ、考察する地理的な基礎知識を得ることです。			
自然科学系	数学	数学A	1	【授業のテーマ】数理的思考における基本的な知識及び「もの見方」を学び、理解する。 【授業の到達目標】「かず」や「かたち」の中にある構造や体系における数理的な考え方及び理論を学ぶ。		
		数学B	1	【授業のテーマ】数理的思考における基本的な知識及び「もの見方」を学び、理解する。 【授業の到達目標】実数や関数の性質や微分積分の考え方、現象の解析的手法による解釈を学ぶ。		
		数学C	1	【授業のテーマ】数理的思考における基本的な知識及び「もの見方」を学び、理解する。 【授業の到達目標】数学的概念の歴史的経緯、哲学、美的感覚や、諸科学と数学の関連を学ぶ。数学の技術的な内容を用いず、数学の本質的な性質が理解できるための話題を紹介します。あなたが数学をあまり好きでなくても、でも、もう一回だけ数学をやってみてもいいと思うのなら、この授業がちょうどいいと思います。細かい方程式や定義などを使わずに、数学の美しさがわかることを目指します。		

分野	区分	授業科目名	単位数	授業概要	備考
自然科学系	化学	化学A	1	<p>【授業のテーマ】我々の身近で起こる諸現象は、おおよそ物質構成要素である分子レベルで捉えることができる。一般に分子は複数の原子から構成されており、固有の形や性質を有している。本講義ではこうした分子にまつわる微視的な内容に関して平易に解説し、日常生活においても化学的思考ができることを目標とする。特に、化学Aでは分子の基本的な性質や生命に果たす役割に関する「化学的」基礎知識を身につけて、生命現象を化学という視点から考える方法論を理解できるようになることを目標とする。そのために、分子の構造と化学的性質、分子間に働く相互作用、生体分子における構造と機能の関連性について学び、それらを応用した分析技術について「化学的」視点から解説する。</p> <p>【授業の到達目標】1. 化学的性質や分子構造を理解できる。2. 化合物の機能と構造との関係について理解できる。3. 日常生活において、化学との関わりを理解し、化学的思考ができる。</p>	理学療法 学専攻 作業療法 学専攻 のみ対象
		化学B	1	<p>【授業のテーマ】我々の身体は、200種類を超える細胞から構成されており、生命活動を支える様々な生体機能はこれらの細胞が織りなす複雑な化学反応として捉えることができる。本講義では、皆さんの普段の生活にも関わりの深い生命現象について、具体的な実例を挙げ、その現象を司る細胞の重要な役割と、その制御について解説する。また、一般的に栄養成分としても馴染みのある核酸、蛋白質、脂質、糖質などの生体分子の基礎知識について学習する。本講義では、8回の講義を通して、味覚のような生命の高次機能や、老化・癌のような疾患について、細胞生物学的、分子生物学的に理解できることを目標とする。【授業の到達目標】1. 生体分子の基本を説明できること。2. 生命現象と生体分子の関係が理解できること。3. 生命科学の一端を科学的に理解できること。</p>	理学療法 学専攻 作業療法 学専攻 のみ対象
		化学C	1	<p>【授業のテーマ】自然界は優れた特性を持つ多種多様な無機、有機、及び生体関連物質等から成っている。通常、それを意識することは少ないが、こうした視点を持つことによって種々の物質の性質や機能を理解しやすくなることは多い。本講義では、物質の性質などに関して化学的な視点から理解することを目標とする。</p> <p>【授業の到達目標】1. 身近な物質について、ミクロな視点からマクロな視点まで、それらの関連性について理解できる。2. 物質の性質と状態についての関わりについて理解できる。3. 広く自然のしくみについて、化学的視点から興味を持てる。</p>	理学療法 学専攻 作業療法 学専攻 のみ対象
		化学D	1	<p>【授業のテーマ】自然界は優れた特性を持つ多種多様な無機、有機、及び生体関連物質等から成っている。通常、それを意識することは少ないが、こうした視点を持つことによって種々の物質の性質や機能を理解しやすくなることは多い。本講義では、物質の性質などに関して化学的な視点から理解することを目標とする。</p> <p>【授業の到達目標】1. 身近な物質について、ミクロな視点からマクロな視点まで、それらの関連性について理解できる。2. 物質の性質と状態についての関わりについて理解できる。3. 広く自然のしくみについて、化学的視点から興味を持てる。</p>	理学療法 学専攻 作業療法 学専攻 のみ対象
	惑星学	惑星学A	1	<p>【授業のテーマ】惑星の起源</p> <p>【授業の到達目標】地球を含む太陽系の惑星および諸天体の形成と表層環境進化を、より身近な事象として考えることができるようになることを目的とする。</p>	
		惑星学B	1	<p>【授業のテーマ】惑星の進化を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】惑星地球の誕生や歴史の概要を把握し、宇宙における地球、地球における人間の関係等について考えることを目的とする。</p>	
		惑星学C	1	<p>【授業のテーマ】惑星の構造とその変動</p> <p>【授業の到達目標】地球・惑星とその表層の大気海洋などの構造ならびにそこに見られる変動現象について基本的なことから理解することを目的とする。</p>	
	情報科学	情報学A	1	<p>【授業のテーマ】</p> <p>現代社会においては、コンピュータやスマートフォンなど、情報技術を利用した機器が日常的な道具として我々のくらしに溶け込んでいる。本講義では、それらを安全かつ有効に利用するために、情報技術に関する一般的な知識を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>本講義は、特にコンピュータのハードウェアとソフトウェアの側面から、これらの機器に利用されている情報技術の歴史や仕組み、最近の活用事例を学び、高度に発展を続ける情報化社会を生き抜くために必要な基礎知識を習得することを目的とする。</p>	
		情報学B	1	<p>【授業のテーマ】現代社会においては、コンピュータやスマートフォンなど、情報技術を利用した機器が日常的な道具として我々のくらしに溶け込んでいる。本講義では、それらを安全かつ有効に利用するために、情報技術に関する一般的な知識を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】本講義は、特にネットワークやサービスの側面から、これらの機器に利用されている情報技術の歴史や仕組み、最近の活用事例を学び、高度に発展を続ける情報化社会を生き抜くために必要な基礎知識を習得することを目的とする。</p>	

授業概要【総合教養科目】

科目区分等	授業科目名	単位数	授業概要
(1) 多文化理解			
教育と人間形成	教育と人間形成	1	この授業では学校教育および大学教育に関するさまざまな映像作品を鑑賞し、意見交換を行います。これらを通じて、大学生としての自己形成についての知見を得ることを目標とします。
文学	文学A 文学B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
言語科学	言語科学A 言語科学B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
芸術と文化	芸術と文化A 芸術と文化B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
日本史	日本史A 日本史B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
東洋史	東洋史A 東洋史B	1 1	テーマ:中国唐宋時代の官僚目標・比較文化・異文化理解 【テーマ】イスラームとムスリム社会の歴史【到達目標】イスラームという宗教は、西暦7世紀にアラビア半島で発生した後、仏教やキリスト教と同じように、色々な地域で様々な人々によって担われてきた多様な現象です。そして多くの場合、イスラームとムスリム社会は、在来の文化を排除するよりは、むしろこれを巧みに吸収することによって発展してきました。イスラームという宗教について、現代の日本社会ではすでにいくつかのイメージが築かれています。しかしそうしたイメージは、歴史上に現れた様々な形のイスラームのうちのごく一面でしかありません。むしろそうしたイメージが多かれ少なかれ、何らかの歴史的な背景に根ざしていることを、この授業では示していきます。この授業の到達目標は、(1)イスラームとムスリム社会の歴史に関する知識を広げること、その知識を踏まえて、(2)現代の社会現象を歴史的に考察する態度を身につけること、(3)異なる社会や文化の現象を相対的に観察する態度を身につけることです。
アジア史	アジア史A アジア史B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
西洋史	西洋史A 西洋史B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
考古学	考古学A 考古学B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
芸術史	芸術史A 芸術史B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
美術史	美術史A 美術史B	1 1	美術史学の基礎を通して、キリスト教と美術、さらに両者の関係について理解させる。 美術史学の基礎を通して、キリスト教と美術、さらに両者の関係について理解させる。
科学史	科学史A 科学史B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
社会思想史	社会思想史	1	本講義の目標は、17世紀以来の西洋の社会理論を歴史的に概観し、展開を理解することを目標とする。
文化人類学	文化人類学	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
現代社会論	現代社会論A 現代社会論B	1 1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
越境する文化	越境する文化	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
生活環境と技術	生活環境と技術	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
学校教育と社会	学校教育と社会	1	【授業のテーマ】教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきました。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからです。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつくわけです。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していきます。 【授業の到達目標】教育を社会科学の目で捉えるとはどういうことなのか、情緒的にはなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解していただくことです。【すなわち、本学教育憲章中の「人間性(専門外の教養科目の多くはこれに該当します)」と「国際性」に関わる授業です。】 私たちは身のまわりにあふれるさまざまなかたちを使って生活している。そのかたちの科学的な基礎となるのが△○□といった幾何学的なかたちである。しかし、幾何学とはあまり関係しない日本の文化的な日常生活においては、こうした幾何学的なかたちは無視されることが多く、そのため、かたちの持つ本来の姿や意味の科学的な側面は見逃されがちになる。本講義では、その不備を少しでも補うため、日本の文化史上に見られる幾何学的なかたちの重大性を見直し、その結果として得た知識を、今後の文化的な諸分野をリードするオリジナルな思索や創作に役立てようとする。
カタチの文化学	カタチの文化学A カタチの文化学B	1 1	学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
(2) 自然界の成り立ち			
科学技術と倫理	科学技術と倫理	1	【授業のテーマ】教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきました。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからです。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつくわけです。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していきます。 【授業の到達目標】教育を社会科学の目で捉えるとはどういうことなのか、情緒的にはなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解していただくことです。【すなわち、本学教育憲章中の「人間性(専門外の教養科目の多くはこれに該当します)」と「国際性」に関わる授業です。】
現代物理学が描く世界	現代物理学が描く世界	1	【授業のテーマ】教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきました。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからです。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつくわけです。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していきます。 【授業の到達目標】教育を社会科学の目で捉えるとはどういうことなのか、情緒的にはなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解していただくことです。【すなわち、本学教育憲章中の「人間性(専門外の教養科目の多くはこれに該当します)」と「国際性」に関わる授業です。】
身近な物理法則	身近な物理法則	1	【授業のテーマ】教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきました。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからです。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつくわけです。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していきます。 【授業の到達目標】教育を社会科学の目で捉えるとはどういうことなのか、情緒的にはなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解していただくことです。【すなわち、本学教育憲章中の「人間性(専門外の教養科目の多くはこれに該当します)」と「国際性」に関わる授業です。】
カタチの自然学	カタチの自然学	1	学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campus/1</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。



科目区分等	授業科目名	単位数	授業概要
ものづくりと科学技術	ものづくりと科学技術A	1	【授業のテーマ】教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきました。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからです。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつくわけです。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していきます。【授業の到達目標】教育を社会科学の目で捉えるとはどういうことなのか、情緒的にはなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解していただくことです。【すなわち、本学教育憲章中の「人間性(専門外の教養科目の多くはこれに該当します)」と「国際性」に関わる授業です。】
	ものづくりと科学技術B	1	【授業のテーマ】教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきました。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからです。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつくわけです。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していきます。【授業の到達目標】教育を社会科学の目で捉えるとはどういうことなのか、情緒的にはなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解していただくことです。【すなわち、本学教育憲章中の「人間性(専門外の教養科目の多くはこれに該当します)」と「国際性」に関わる授業です。】
生物資源と農業	生物資源と農業A	1	有史以前から人類は生活を豊かにする糧として周囲の多様な植物(植物資源)を生活に利用し、さらに改良を加え栽培してきた(農林業)。本講義では、その大部分を占める資源植物とそれを取り巻く環境の保全について、および生産物の特性について紹介し、農林業についての理解を深める。
	生物資源と農業B	1	有史以前から人類は生活を豊かにする糧として周囲の多様な植物(植物資源)を生活に利用し、さらに改良を加え栽培してきた(農林業)。本講義では、その大部分を占める資源植物とそれを取り巻く環境の保全について、および生産物の特性について紹介し、農林業についての理解を深める。
	生物資源と農業C	1	有史以前から人類は、生活の糧として多様な生物資源を利用し、改良を加えてきた。本授業では、農業上重要な昆虫及び微生物の資源について紹介し、農業とこれらをめぐる諸問題について多面的に理解する力を身につけることを目標とする。
	生物資源と農業D	1	有史以前から人類は、生活の糧として多様な生物資源を利用し、改良を加えてきた。本授業では、農業上重要な資源植物や土壌環境などについて紹介し、農業とこれらをめぐる諸問題について多面的に理解する力を身につけることを目標とする。
(3) グローバルイシュー			
環境学入門	環境学入門A	1	学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
	環境学入門B	1	学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
社会と人権	社会と人権A	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
	社会と人権B	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
男女共同参画とジェンダー	男女共同参画とジェンダーA	1	既修得単位認定対象外科目
	男女共同参画とジェンダーB	1	既修得単位認定対象外科目
グローバルリーダーシップ育成基礎演習	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	2	既修得単位認定対象外科目
EU基礎論	EU基礎論	1	既修得単位認定対象外科目
国際協力の現状と課題	国際協力の現状と課題A	1	既修得単位認定対象外科目
	国際協力の現状と課題B	1	既修得単位認定対象外科目
政治と社会	政治と社会	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
社会生活と法	社会生活と法	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
国家と法	国家と法	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
現代の経済	現代の経済A	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
	現代の経済B	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
経済社会の発展	経済社会の発展	1	今日経済の世界化(グローバル化)が急速な勢いで進行していますが、現代社会に生きる私たちは誰であれ否応なくその影響にさらされています。この授業では、経済学的発想の基礎を理解していただくと同時に、時間的・歴史的側面を重視して、今日にいたる現実の経済社会の発展を、下記の四つのキーワードに即してお話いたします。経済社会を長期的な視野で理解する見方・考え方の基本を養っていただくことを目標としています。
企業と経営	企業と経営	1	テーマは「企業と経営」です。経営学を専攻しない学部学生を対象とします。「企業とは何か」また、「経営とは何か」などについて、基礎知識のない人にもわかりやすく授業を進めます。到達目標: 受講生が生活の中で企業活動に触れる時や、企業に関する基礎知識を知ること目標としています。社会に出る時に必要な就職を考える際には、企業の選択にも役立ちます。
地球史における生物の変遷	地球史における生物の変遷	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
生物の環境適応	生物の環境適応	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
人間活動と地球生態系	人間活動と地球生態系	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
食と健康	食と健康A	1	人の「健康」と密接に関係する「食」を科学的視点で捉えた「学問の発展」の成果の中から、我々が今後「持続可能な開発・発展」を進めていく上で重要な事項について幅広く理解を深めることを目標とする。つまり、農畜産物の生産、食品の機能性、遺伝子組み換え作物、農業等、我々の「食の安全・安心」だけでなく「地球環境の保全」や「人類の幸福」につながってゆく事項について学ぶ。
	食と健康B	1	人の「健康」と密接に関係する「食」を科学的視点で捉えた「学問の発展」の成果の中から、我々が今後「持続可能な開発・発展」を進めていく上で重要な事項について幅広く理解を深めることを目標とする。つまり、農畜産物の生産、食品の機能性、遺伝子組み換え作物、農業等、我々の「食の安全・安心」だけでなく「地球環境の保全」や「人類の幸福」につながってゆく事項について学ぶ。
資源・材料とエネルギー	資源・材料とエネルギーA	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
	資源・材料とエネルギーB	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。

科目区分等	授業科目名	単位数	授業概要
(4)ESD			
ESD基礎	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	1	既修得単位認定対象外科目
	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	1	既修得単位認定対象外科目
ESD論	ESD論(持続可能な社会づくり2)	1	既修得単位認定対象外科目
	ESD論(持続可能な社会づくり2)	1	既修得単位認定対象外科目
ESD生涯学習論	ESD生涯学習論	1	既修得単位認定対象外科目
	ESD生涯学習論	1	既修得単位認定対象外科目
ESDボランティア	ESDボランティア	1	既修得単位認定対象外科目
(5)キャリア科目			
企業社会論	企業社会論A	1	既修得単位認定対象外科目
	企業社会論B	1	既修得単位認定対象外科目
職業と学び	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1	既修得単位認定対象外科目
	職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1	既修得単位認定対象外科目
社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	2	既修得単位認定対象外科目
ボランティアと社会貢献活動	ボランティアと社会貢献活動A	1	既修得単位認定対象外科目
	ボランティアと社会貢献活動B	1	既修得単位認定対象外科目
グローバルチャレンジ実習	グローバルチャレンジ実習	1又は2	既修得単位認定対象外科目
(6)神戸学			
神戸大学史	神戸大学史A	1	既修得単位認定対象外科目
	神戸大学史B	1	既修得単位認定対象外科目
神戸大学の研究最前線	神戸大学の研究最前線A	1	既修得単位認定対象外科目
	神戸大学の研究最前線B	1	既修得単位認定対象外科目
阪神・淡路大震災	阪神・淡路大震災A	1	既修得単位認定対象外科目
	阪神・淡路大震災B	1	既修得単位認定対象外科目
地域連携	ひょうご神戸学	1	既修得単位認定対象外科目
	地域社会形成基礎論	1	既修得単位認定対象外科目
海への誘い	海への誘い	2	既修得単位認定対象外科目
瀬戸内海学入門	瀬戸内海学入門	2	既修得単位認定対象外科目
(7)データサイエンス			
データサイエンス入門	データサイエンス入門A	1	H30年度新規開講科目。授業内容等の詳細は3月中旬に公開される学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。
	データサイエンス入門B	1	H30年度新規開講科目。授業内容等の詳細は3月中旬に公開される学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ](学部-国際教養教育院)で確認してください。

授業概要【外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科学、資格免許のための科目】

科目区分等	授業科目名	単位数	授業概要	
外国語第Ⅰ	English Communication A1	0.5	【授業のテーマ】口頭英語を中心とした英語能力の向上 【授業の到達目標】英語の発音や表現パターンの理解、また、英語による口頭での意見交換などを通して、聞く力と話す力を中心とした英語能力の総合的開発を目指す。	
	English Communication A2	0.5		
	English Communication B1	0.5		
	English Communication B2	0.5		
	English Literacy A1	0.5		
	English Literacy A2	0.5		
	English Literacy B1	0.5		
	English Literacy B2	0.5		
外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A1	0.5	【授業のテーマ】この授業では基礎的なドイツ語の知識を学習します。外国語第Ⅱ(未修外国語)としてドイツ語を選んだ人が必ず履修しなければならない科目です。ドイツ語は、今日、ドイツ統一とヨーロッパ統合を経て、さらに中東欧への市場拡大の時代を迎え、ますます情報伝達のメディアとしての性格を顕著にきています。幅広く国際社会で活躍しようとする人にとっても、多彩で興行のあるヨーロッパの歴史や文化に関心のある人にとっても、また環境問題のような現代的な課題に取組もうとする人にとっても、ドイツ語を学ぶ意義はきわめて大きいといえるでしょう。そうしたドイツ語圏に関する知識を得、理解するための第一歩としてドイツ語の基礎をしっかりと身につけることが初年度の授業のテーマです。 【授業の到達目標】ドイツ語の基礎的な文法知識や日常コミュニケーションの基本的表現などの習得をとおして、基礎的なドイツ語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。	
	ドイツ語初級A2	0.5		
	ドイツ語初級B1	0.5		
	ドイツ語初級B2	0.5		
	ドイツ語初級A3	0.5		
	ドイツ語初級A4	0.5		
	ドイツ語初級B3	0.5		
	ドイツ語初級B4	0.5		
	フランス語初級A1	0.5		
	フランス語初級A2	0.5		
	フランス語初級B1	0.5		
	フランス語初級B2	0.5		
	フランス語初級A3	0.5		
	フランス語初級A4	0.5		
	フランス語初級B3	0.5		
	フランス語初級B4	0.5		
外国語第Ⅱ	中国語初級A1	0.5	【授業のテーマ】中国では、トルコ系、モンゴル系など様々な言語が話されていますが、俗に中国語と言われているものは、漢語系に属するものです。漢語はさらに、相互に伝達不可能なほど異なる幾つかの方言に分かれます。私達が勉強する中国語は、北京語を基礎とした普通話と呼ばれるものです。中国語を用いての国際交流や中国の歴史や文化に対する興味から中国語の学習に積極的に取り組むことにより、次へのステップに進む人も少なくありません。他方で、中国語は「漢字だから易しい」と勘違いして、予習・復習を怠り、授業に付いていけなくなる人もいます。実のところ、基礎段階ではピンインと呼ばれるローマ字表記を用いての学習が基本です。声調と呼ばれる音の高低によって意味を区別する発音システムの習得など、決して他の未修外国語と比べて易しいと言うことはありません。「易しいから」という安易な思いで履修した人にとっては予想外の苦痛に満ちた授業が展開されることになるでしょう。 【授業の到達目標】この授業の目標は、以下の3点です。1. 中国語の概要を理解し、その特徴に慣れること。2. 中国語の発音を正確に身に付け、かつ聞き取れるようにすること。3. 中国語学習の基礎となる語彙と文法をマスターすること。	
	中国語初級A2	0.5		
	中国語初級B1	0.5		
	中国語初級B2	0.5		
	中国語初級A3	0.5		
	中国語初級A4	0.5		
	中国語初級B3	0.5		
	中国語初級B4	0.5		
	ロシア語初級A1	0.5		【授業のテーマ】ロシア語学習の第一歩は文字をしっかりと覚えることです。キリル文字といって、ギリシャ文字に似た独特の文字を使います。発音の規則がそれほど複雑ではないので、文字をしっかりと覚えれば、文章を声に出して読むのは比較的簡単です。単語はコツコツと覚える必要があります。ロシア語も英・独・仏語などと同じインド・ヨーロッパ語の仲間なので、単語や表現に似ているものもありますが、かなり違うものも多いです。声に出して繰り返し発音することで、ロシア語の音に慣れると覚えやすくなるかもしれません。ロシア語の難しさでもあり、醍醐味でもあるのが、変化が沢山あることです。授業では1年間かけて少しずつ学びます。新しく学ぶことが多いので、きちんと授業に出て説明を聞くこと、復習をしっかりとすることが絶対に必要です。たとえていえば、急だけれど低い山のようなもの。確かに最初こそ大変ですが、変化を覚えてしまえば、読んだり話したりすることがかなり出来るようになります。ロシア語が理解できるようになれば、チェコ語、ポーランド語、ブルガリア語など、同じスラヴ語群に属し、ロシア語と共通点の多い言葉も学びやすくなり、新しい世界が広がることでしょう。1年次の授業では、基礎文法を理解するとともに、挨拶などの簡単な表現を使えるようになることが目標です。
	ロシア語初級A2	0.5		
	ロシア語初級B1	0.5		
	ロシア語初級B2	0.5		
ロシア語初級A3	0.5			
ロシア語初級A4	0.5			
ロシア語初級B3	0.5			
ロシア語初級B4	0.5			
情報科目	情報基礎	1	【既修得単位認定対象外科目】 担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusssy/] (学部-国際教養教育院)で確認してください。	
	情報科学1	1		
	情報科学2	1		
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学実習基礎1	0.5	【授業のテーマ】スポーツ活動の意義と役割を理解しよう 【授業の到達目標】各自が自らの健康や体力について考えとともに、その維持増進のための知識と実践方法を学びます。・運動・スポーツ各種目の選択実施により、からだを動かすことの楽しさを体感しながら、ルール、マナー、技術の習得を目的とします。・運動・スポーツを行う中で、学生相互のふれあいを通じ、コミュニケーション力、リーダーシップなどの社会性の向上を目指します。	
	健康・スポーツ科学実習基礎2	0.5		



授業概要【共通専門基礎科目】

授業科目名	単位数	授業概要	備考
線形代数入門1	1	【授業のテーマ】線形代数学の入門的講義で、主に3次元以下を扱う。この授業に続いて「線形代数入門2」では、線形写像や固有値を学ぶことができる。 【授業の到達目標】はじめに、行列とその演算を学ぶ。行列の基本変形を用いて掃き出し法を考察することにより、連立1次方程式の解法を習得する。次に、正方行列に対して、行列式の定義を学ぶ。行列式の性質を考察することにより、行列式の計算法を修得する。最後に、数ベクトルの1次独立性(線形独立性)、1次従属性(線形従属性)を学ぶ。	全専攻対象
線形代数入門2	1	【授業のテーマ】「線形代数入門1」の続きである。この授業に続いて「線形代数1」では、一般次元の線形代数の進んだ事項を学ぶことができる。 【授業の到達目標】はじめに、数ベクトルの1次関数の一般化である線形写像について学ぶ。余裕があれば、行列の固有値と固有ベクトルの初歩を学ぶ。	全専攻対象
微分積分入門1	1	【授業のテーマ】数学Ⅲ未習得者が学ぶ微分積分学の入門的講義である。1変数関数の微分を学ぶ。この授業に続いて「微分積分入門2」では、1変数関数の積分を学ぶことができる。 【授業の到達目標】関数とその極限について学んだ後、はじめに1変数関数の微分を学ぶ。微分法として微分法の公式、関数の増加・減少、極値問題、テーラーの定理を考察する。	全専攻対象
微分積分入門2	1	【授業のテーマ】「微分積分入門1」の続きである。1変数関数の積分を学ぶ。この授業に続いて「微分積分1」では、微分法を中心に微分積分のさらに進んだ事項を学ぶことができる。 【授業の到達目標】積分法として定積分とその計算法(置換積分、部分積分)を考察する。つぎに2変数関数とそれが空間において曲面を表すことを考察してから、偏微分法と2変数関数の極値問題を学ぶ。	全専攻対象
物理学入門	1	【授業のテーマ】高等学校で基礎的な物理学を学んでいない学生を対象として、大学における物理学の専門基礎科目の履修に向けた準備として、力学、電磁気などを中心に物理学の知識や考え方の基礎を学ぶ。 【授業の到達目標】力学、電磁気などの分野を中心に、大学における物理学の専門基礎科目の履修に必要なレベルの基本的な物理法則を理解し、実際の物理現象に応用する力を修得する。	全専攻対象
力学基礎1	1	【授業のテーマ】自然現象や自然の構造を理解するための基盤である物理学の基礎のうち、「力学基礎1」および「力学基礎2」の授業で力学を扱う。「力学基礎1」では、質点の力学を中心として、運動の数学的記述、運動の3法則、力の法則、運動方程式の積分法などについて学ぶ。 【授業の到達目標】講義を通じて、運動および力に関する基本的な物理法則を理解し、実際の物理現象に応用する力を修得する。あわせて、力学に関わる微分方程式とその解法などの数学的技法も修得する。	全専攻対象
力学基礎2	1	【授業のテーマ】自然現象や自然の構造を理解するための基盤である物理学の基礎のうち、「力学基礎1」および「力学基礎2」の授業で力学を扱う。「力学基礎2」では、仕事とエネルギー、角運動量、質点系の力学、剛体の力学などについて学ぶ。 【授業の到達目標】講義を通じて、仕事とエネルギー、角運動量、質点系の力学、剛体の力学に関する基本的な物理法則を理解し、実際の物理現象に応用する力を修得する。あわせて、力学現象に関わる微分・積分などの数学的技法を修得する。	全専攻対象
電磁気学基礎1	1	【授業のテーマ】自然現象や自然の構造を理解するための基盤である物理学の基礎のうち、「電磁気学基礎1」および「電磁気学基礎2」の授業で電磁気学を扱う。「電磁気学基礎1」では、電荷と電場、導体・誘電体と電場、電流などについて学ぶ。 【授業の到達目標】講義を通じて、静電場、導体・誘電体、電流などに関する基本的な物理法則を理解し、実際の物理現象	検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻 の3専攻対象
電磁気学基礎2	1	【授業のテーマ】自然現象や自然の構造を理解するための基盤である物理学の基礎のうち、「電磁気学基礎1」および「電磁気学基礎2」の授業で電磁気学を扱う。「電磁気学基礎2」では、電流と磁場、磁性体、電磁誘導、交流回路、マックスウェル方程式と電磁波などについて学ぶ。 【授業の到達目標】講義を通じて、電流と磁場、磁性体、電磁誘導、交流回路、マックスウェル方程式と電磁波などに関する基本的な物理法則を理解し、実際の物理現象に応用する力を修得する。電磁気学に関わる、ベクトル解析、積分法などの数学的技法を修得する。	検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻 の3専攻対象
物理学実験基礎	1	【授業のテーマ】物理学の各分野(力学、電磁気学、光学、原子物理学、実験技術)に関するいくつかの基礎的実験を行う。種々の物理現象を体験し、基礎的測定法の学習を通じて、物理学の講義内容をより深く理解することを目的とする。 【授業の到達目標】実験方法、実験装置・器具の操作法に習熟すると同時に、レポート作成を通して物理学をより深く理解し、科学的思考法とその表現法、および測定値整理法の基本を習得することを到達目標とする。	検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻 の2専攻対象
物理学実験	1	【授業のテーマ】物理学の各分野(力学、電磁気学、光学、原子物理学、実験技術)に関する基礎的実験を行う。種々の物理現象を体験し、基礎的測定法の学習を通じて、物理学の講義内容をより深く理解することを目的とする。 【授業の到達目標】実験方法、実験装置・器具の操作法に習熟すると同時に、レポート作成を通して物理学をより深く理解し、科学的思考法とその表現法、および測定値整理法を習得することを到達目標とする。	検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻 の3専攻対象
基礎物理化学1	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ]	検査技術科学専攻対象
基礎物理化学2	1	(学部-国際教養教育院)で確認してください。	
基礎有機化学1	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ]	看護学専攻 検査技術科学専攻 の2専攻対象
基礎有機化学2	1	(学部-国際教養教育院)で確認してください。	
生物学概論B1	1	担当教員によって授業概要が異なりますので、学外公開用シラバス[ <a href="https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/">https://kym-syllabus.ofc.kobe-u.ac.jp/campusy/</a> ]	全専攻対象
生物学概論B2	1	(学部-国際教養教育院)で確認してください。	
生物学各論C1	1	多様な生物たちは、さまざまな環境条件に巧みに適応しながら生活している。それぞれの種がもつ生活様式を知ることから環境との関わりに理解を深め、次いで複数の種が競争や共生関係の中で、どのように共存し、生物界の多様性が維持されているのかを講義する。後半は、その生物の多様性が危機的状況にあることを取り上げ、保全生態学の展開を紹介す	全専攻対象
生物学各論C2	1	生物の進化と地球の環境形成において小さな微生物達が果たしてきた役割について理解することを目指す。	